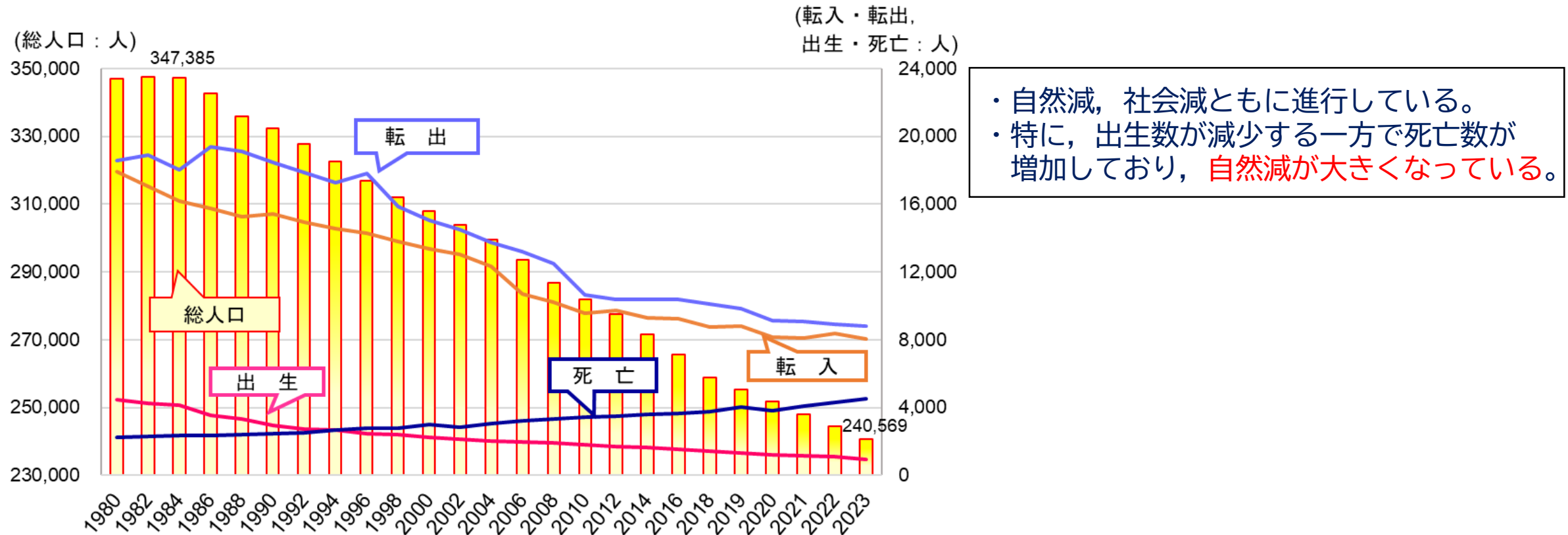


人口の現状

1 総人口，出生数・死亡数，転入数・転出数の推移

【図 総人口，出生数・死亡数，転入数・転出数の推移（住民基本台帳）】



【表 自然増減・社会増減の推移（住民基本台帳）】

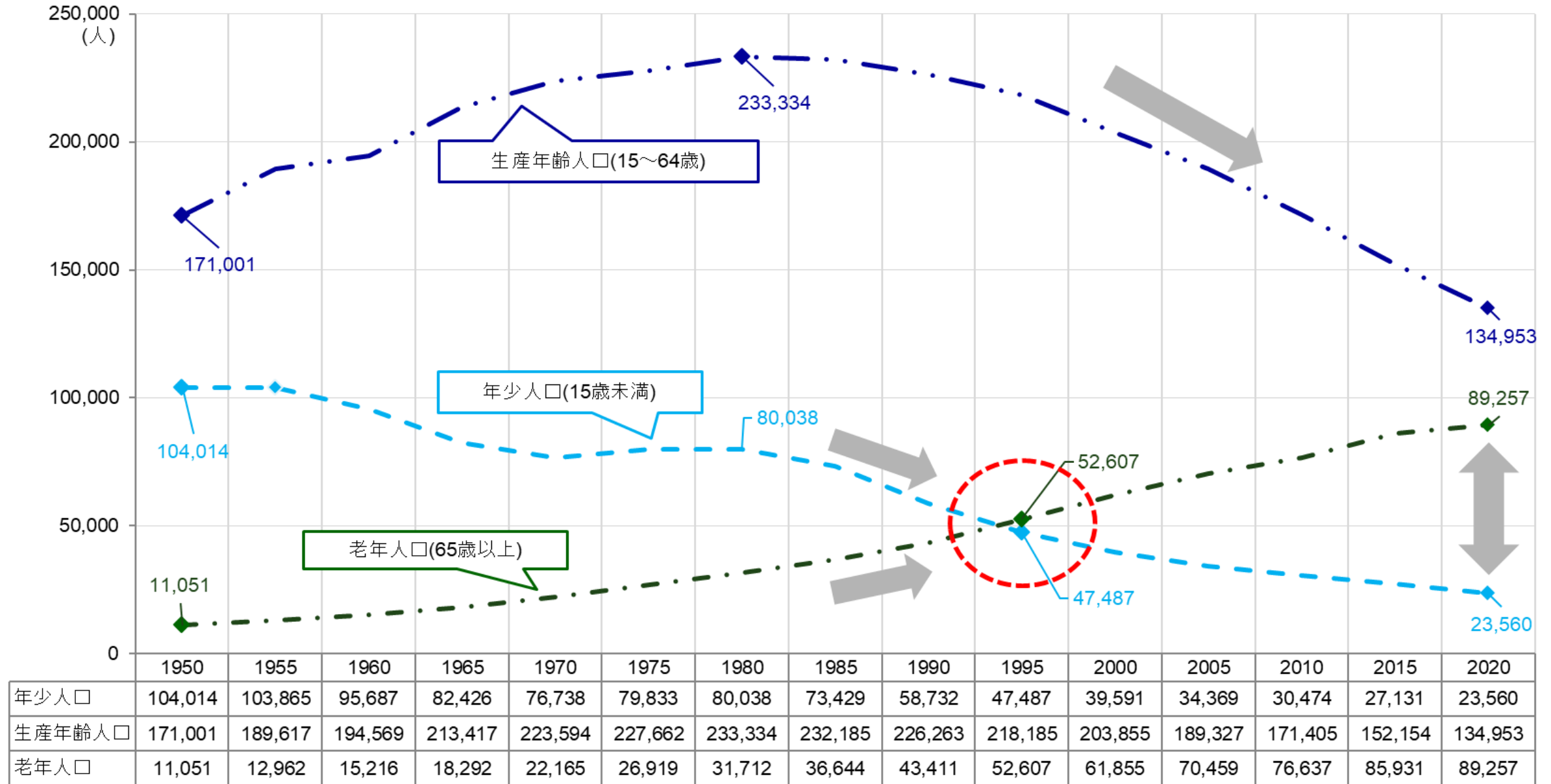
	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2024年
出生	4,479	3,842	2,970	2,606	2,263	1,956	1,832	1,617	1,322	954
死亡	2,258	2,447	2,476	2,817	3,002	3,124	3,446	3,620	4,048	4,498
自然増減	2,221	1,395	494	△ 211	△ 739	△ 1,168	△ 1,614	△ 2,003	△ 2,726	△ 3,544

	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2024年
転入	17,898	15,255	15,421	14,747	13,341	11,275	9,554	9,296	8,820	8,055
転出	18,544	18,592	18,475	17,205	15,034	12,880	10,625	10,395	9,850	8,799
社会増減	△ 646	△ 3,337	△ 3,054	△ 2,458	△ 1,693	△ 1,605	△ 1,071	△ 1,099	△ 1,030	△ 744

人口の現状

2 年齢3区分別人口（年少人口・生産年齢人口・老年人口）の推移

【図 年齢3区分別人口の推移（国勢調査）】

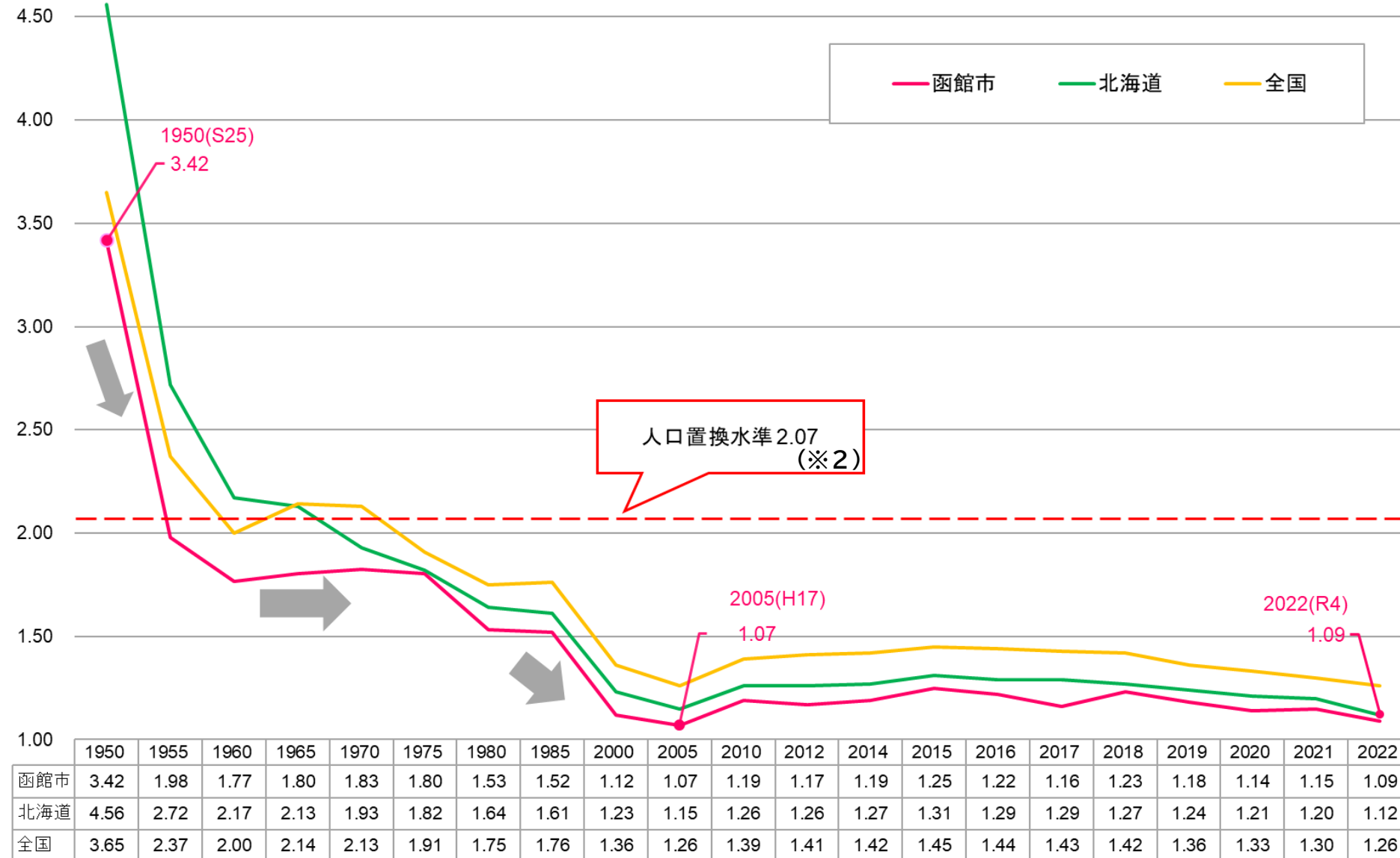


- ・1980年(昭和55年)以降、生産年齢人口および年少人口がともに減少する一方で、**老年人口は増加を続けている。**
- ・1995年(平成7年)以降、老年人口が年少人口を上回っている。

人口の現状

3 合計特殊出生率(※1)の推移

【図 合計特殊出生率の推移（人口動態統計・保健所事業概要）】



※1 合計特殊出生率：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率の合計

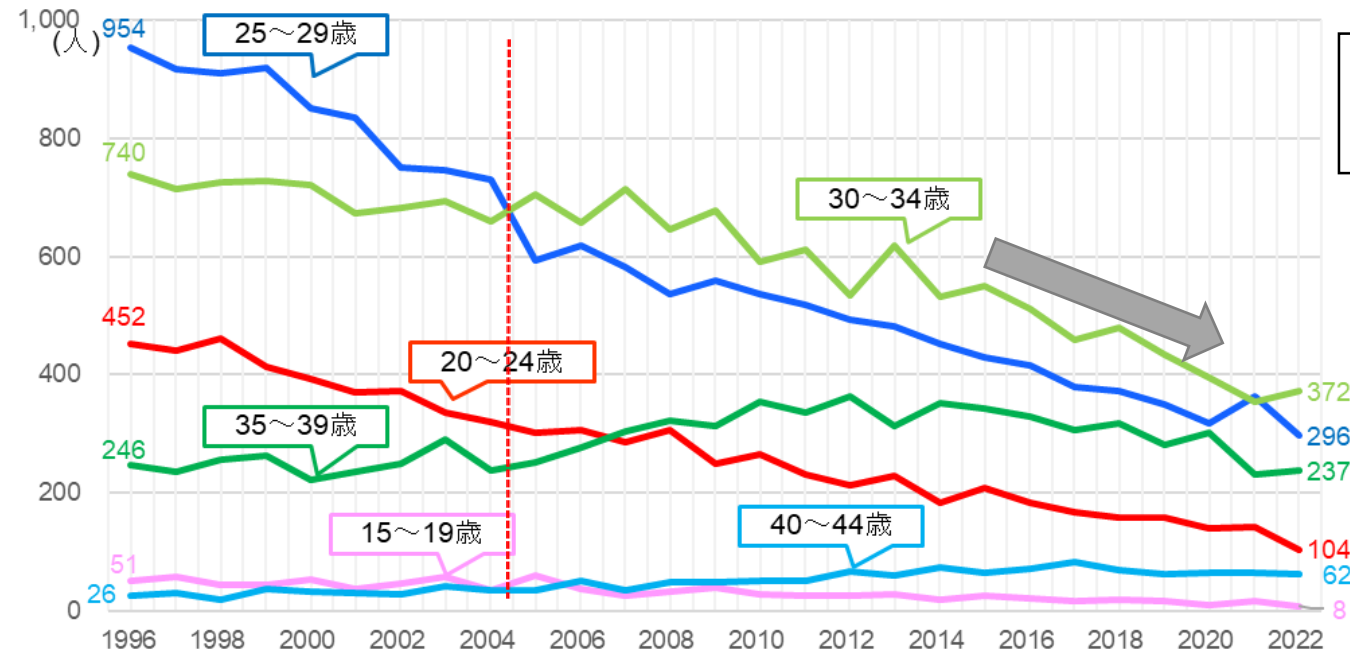
※2 人口置換水準：人口規模が長期的に維持される合計特殊出生率の水準

・全国および北海道を下回って推移し、2005年(平成17年)には1.07まで低下。
 ・近年わずかに上昇したが、2022年(令和4年)は1.09まで低下し、
 人口置換水準である2.07を大きく下回る状況が続いている。

人口の現状

4 母の年齢5歳階級別の出生数の推移

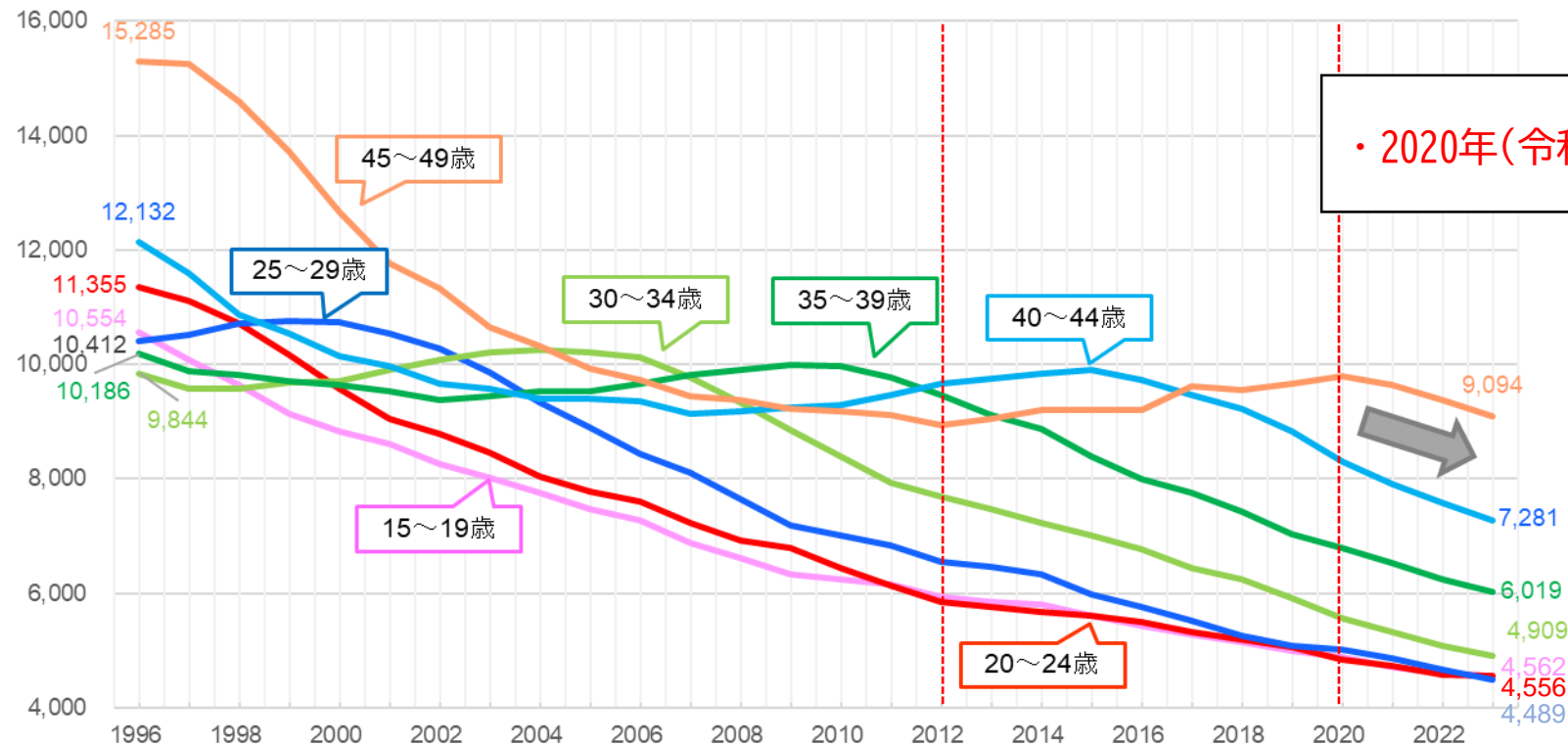
【図 出生率の推移（母の年齢5歳階級別）（人口動態統計）】



・ 20~24歳, 25~29歳および30~34歳の減少が著しい。
 ・ 2005年(平成17年)以降は, 30~34歳が最も多い傾向である。

5 15歳から49歳の女性人口の推移

【図 15歳から49歳の女性人口の推移（住民基本台帳）】

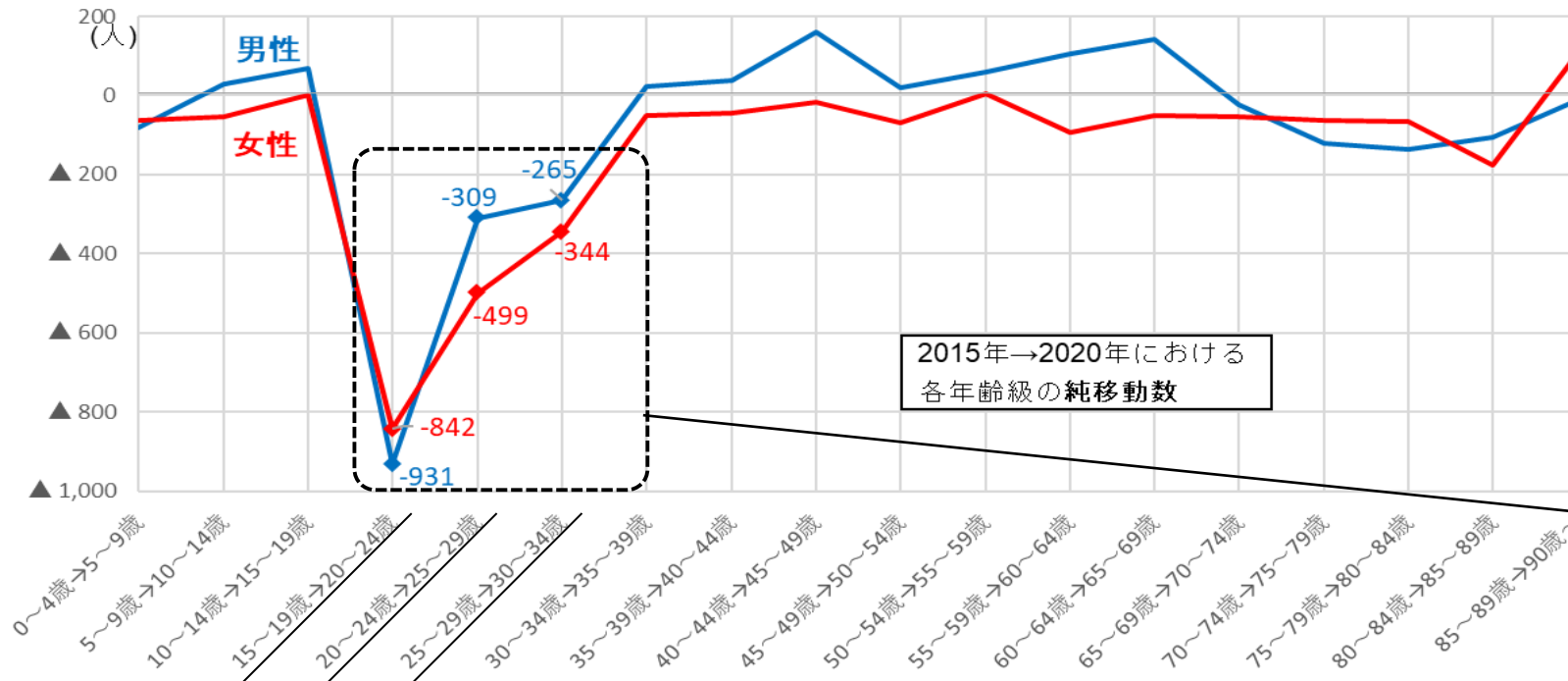


・ 2020年(令和2年)以降, すべての年齢層が減少傾向にある。

人口の現状

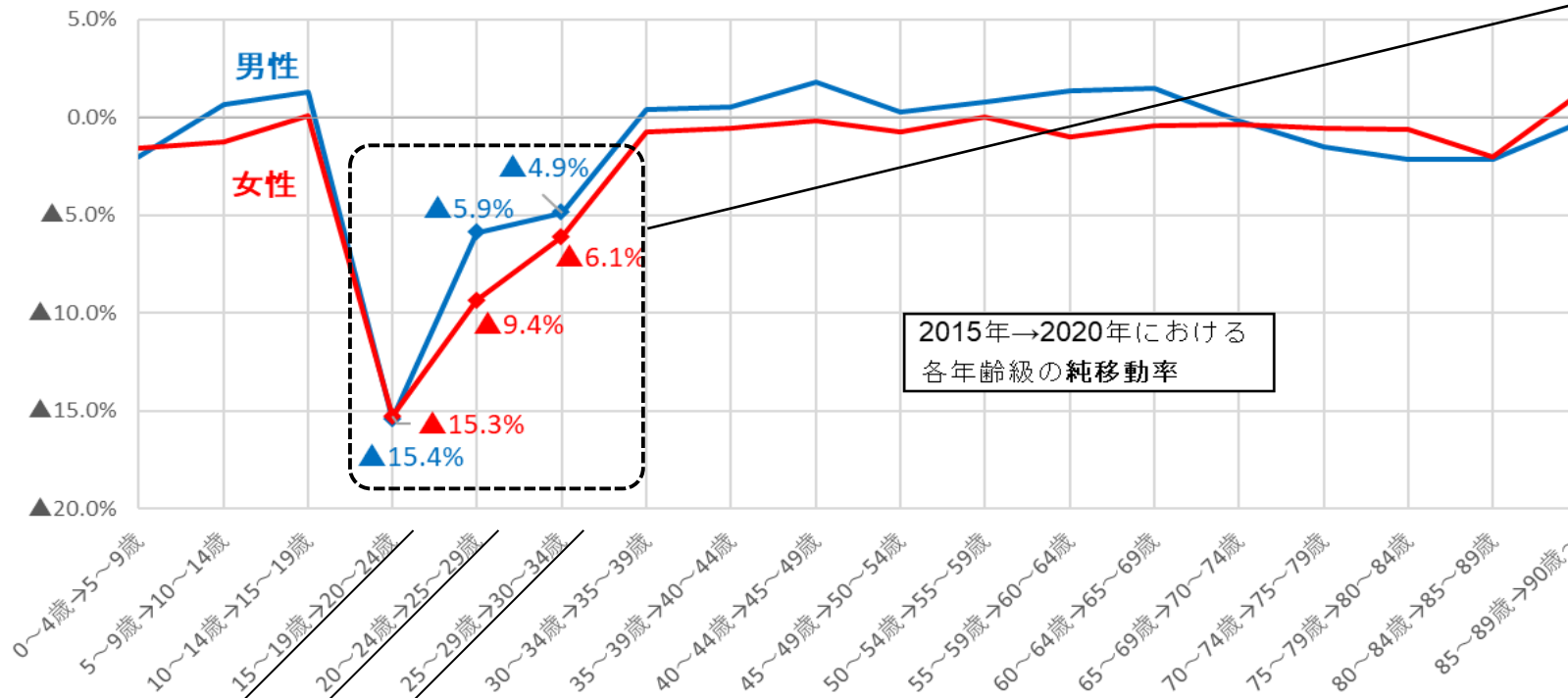
6 年齢階級別の純移動数・純移動率(※3)

【図 年齢階級・男女別の純移動数（内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成資料）】



・男女ともに
 15~19歳→20~24歳
 20~24歳→25~29歳
 25~29歳→30~34歳
 で転出超過となっている。

【図 年齢階級・男女別の純移動率（内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成資料）】



※3 純移動数・純移動率 転出者(転出率)と転入者(転入率)の差を表したもので、転入超過はプラス、転出超過はマイナスとなる。